

ひゅーまん ねつとわーく

地域に生きる

2009年4月 発行 / 第37号

社会福祉法人北摂杉の子会

〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目6-6 奥野ビル402 TEL 072-662-8133 FAX 072-662-8155 info@suginokokai.com



高槻地域生活総合支援センターふれいすBeを開設いたしました



平成 21 年度

社会福祉法人北摂杉の子会年度方針

社会福祉法人北摂杉の子会

理事長 ^{なか} ^{むら} ^{せつ} ^し
中 村 節 史

(当法人をとりまく社会的・経済的状況)

- ① グリーンスパンが無責任にも、「100年に1度の危機」と言ったことに世界中の政治・経済の責任者たちが便乗し、住宅バブルとサブプライム問題という人災を必要以上に深刻化させてしまっていることはあるが、私の友人の金融の現場のプロによれば、景気の先行指標である相場はそろそろ底入れ感があるとのこと、したがって実態経済の底は今年度上期、遅行指標である人員、賃金関係の底は今年度下期とのことのようなのである。いずれにせよ、今年度に景気が回復することは考えにくく、経済・社会の仕組みを再構築し、安定した社会を取り戻すには、3年から5年かかると思われ、その間は厳しい時代を覚悟しておく必要がある。
- ② 一方、今回の経済危機で、社会保障制度や社会福祉の充実が経済・社会を安定させる自動安全装置としての働きを持ち、社会の持続的発展には不可欠だということを皆に再認識させる契機になっていることも事実である。
日本は経済力の割には福祉政策は遅れており、国としても、高齢者福祉、障害者福祉のほうに目を向けざるを得ない状況になってきている。福祉に関わるものにとっては、ある意味でチャンスではあるが、この厳しい状況の中で、バラマキ的に支援がかさ上げされるということは考えにくく、しっかりした経営をしていないところは生き残ることができなくなる時代の到来であるということもしっかり認識しておく必要がある。
- ③ したがって「障害者自立支援法」の中身についてはかなり見直しが見られることになるが、「障害者自立支援法」の理念や大きな枠組みが変わることはないと思われ、また、この法律の主旨そのものを否定しては、福祉の新しい時代の扉を開けることはできないと考えている。

(昨年度の活動の反省と課題)

- ① 利用者の高齢化が進みつつあり、ケアホームの利用者が増加する時期にさしかかっているなかで、地域におけるネットワークとしての支援体

制、特に医療的ケアにおける地域での連携や支援の仕組みが十分に構築されていないため、利用者や、保護者に迷惑をかけたり、職員に過大な負担をかけることが発生している。この問題は一法人だけで解決できるものではないので、法人外の支援の仲間や、医療、行政などを含めた地域でのネットワーク作りが必要である。

- ② 「ジョブサイトよど」においては、利用者のいわゆる通所率が今まで我々が経験しているところと比べかなり低い水準になっているが、今後は自閉症・発達障害の利用者の方々の、個人個人の状況をもっと考慮した対応や、施設としての通いやしやすい環境づくりに注力する必要がある。
また、十三地区では、自閉症・発達障害に特化した支援事業を多角的に運営しており、支援センターとしての色合いも強くなってきているので、今後の事業展開を考え、事業間の連携の強化と大阪市の行政窓口との連携をさらに強めていくことが肝要である。
- ③ ケアホーム建設のための活動の中で、利用者のニーズ把握や、先進施設の見学、ケアホーム運営のシミュレーションなどについては、着実に進んでいるが、肝心の土地の確保が思ったより大変で、適当な土地の確保ができなかった。国からの建設補助金についても、土地を含めた具体的計画が必要なため、全力を挙げて、早急に土地の目処をつけなければならない。
- ④ 余暇支援については平成19年度よりジョブサイトよどでスタートする計画であったが、現在も遅れている。利用者の要望に対し無回答のままで、説明責任を果たせていないことが反省点である。

(昨年度の成果)

- ① 「高槻地域生活総合支援センターふれいすBe」と「萩の杜日中活動支援センターふれっと」の建設については、原油の高騰による建設材料の高騰と行政との摺り合わせなどで、膨大な労力を要したが、関係者全員の努力により、本年4月開設に向けた活動を予定通り進めることができた。

- ② 自閉症支援部の大阪府からの委託事業「大阪府発達障がい者日中活動・就労準備支援モデル事業」「自閉症療育センターLink」については、大阪府の財政再建の厳しい環境の中、担当部門の努力により、2つの事業を予定通り立ち上げることができた。
- ③ 職員の採用については、新卒採用についても、経験者採用についても、この数年の努力の蓄積により、期待通りの結果を残すことができた。課題は、看護師や生活施設、ケアホームの夜勤の職員の安定的な確保である。
- ④ 法人10周年記念講演会活動、利用者の事故な

どに対する法人全体での取り組み、新人研修などを通して、各階層を通じて職員の人たちから、法人全体に対する問題意識の共有と広がりが出てきつつある。法人の体質強化が一步進んだと感じている。

また、法人設立10周年記念の2つの講演会を開催し、1000名近くの支援の仲間の方、利用者のご家族、行政や教育関係の方々にご参加をいただいたが、その活動を通して、「本当の意味での利用者サイドに立った支援」に真摯に取り組んでおられる人たちが、地域にも、各機関にも大勢おられることが実感でき、今後の支援のネットワーク構築を進める上で大きな励みとなった。

平成21年度社会福祉法人北摂杉の子会年度方針

今年度は中期計画（第2次5ヶ年計画）前半の区切りの年として、この3年間の活動の仕上げに注力するとともに、中期計画後半の活動の準備も着実に進める1年とする。

1. 法人内部体制の充実と外部との支援ネットワーク構築活動の強化
法人設立の原点である「本当の意味での利用者サイドに立った支援」を実現するため、法人各事業間、職員間の連携強化による法人としての総合支援力向上を目指すとともに「地域における支援ネットワーク」「利用者のライフステージをつなぐ支援ネットワーク」を構築する取り組みをさらに強化する。特に利用者の高齢化傾向、ふれいすBeの開設に伴う「医療的なケア」の枠組み構築に向けた活動を強化する。
2. ふれいすBeの確実な立ち上げ
知的障害、身体障害、精神障害の方がたをサポートする多機能型支援事業である「高槻地域生活総合支援センターふれいすBe」の確実な立ち上げに全力を尽くし、利用者の期待に応えると同時に経営的にも早期の安定化を図る。
3. 十三地区事業の支援センター機能強化と経営基盤の強化
「広域・特化事業」として、自閉症・発達障害支援事業を、十三地区を拠点として、現在多角的に展開しているが、さらに支援センター拠点としての役割を強化するため、事業間の有機的連携の推進と当該行政窓口との関係強化に取り組む。ジョブサイトよどについては、利用者の

方々のニーズによりマッチした、きめの細かい取り組みを展開することにより、中核施設としての役割を果たす。

4. 高槻地区日中生活支援3施設のセールスポイントの明確化
当法人は今年度より、高槻において、「萩の杜日中活動支援センターふれっと」「ジョブサイトひむろ」「ふれいすBe」の3ヶ所を日中生活支援の場として、利用者に提供することになるが、それぞれの特色を明確にすることにより、利用者のニーズにきめ細かく対応でき、かつ、利用者にとって選択しやすい施設とする。
5. ケアホーム建設用土地の確保
ケアホーム建設実現のため、必要な土地（借地または買取）を早急に確保する。
6. 法人の社会的責任
「法令の順守」「危機管理の徹底」「透明性のある組織」など、法人としての社会的責任を自覚して、さらに一步進んだ活動に取り組む。
7. 将来構想委員会テーマの継続
将来構想委員会のテーマ①授産事業の強化②ケアホームの方向づけ③当法人にふさわしい余暇支援については、21年度も継続テーマとして取り組む。



身体・知的・精神障害対象 「高槻地域生活総合支援センター ぷれいす Be」 開設のご案内

高槻地域生活総合支援センター ぷれいす Be

施設長 水 藤 昌 彦
みず とう まさ ひこ

はじめまして。かねてより開設の準備を進めておりました、障害のある方のための多機能サービス施設「高槻地域生活総合支援センター ぷれいす Be」を、このたび高槻市郡家本町に開設し、4月6日よりサービスを開始いたしました。ぷれいす Be は高槻市の障害福祉計画の一環として、知的に障害のある方が通われていた「市立つきのき学園」(2009年3月をもって閉園)、肢体に重度の障害のある方の通われていた「市立かしのき園」(同)の2施設を統合する形で、民間事業として開設したものです。旧高槻市立養護学校の跡地である敷地は市所有のまま、建物の設置と事業運営は当法人が行うという形で継承を行いました。

当施設での提供サービスについては、次のとおりとなっております。

事業名	定員
生活介護事業	30名
自立訓練事業	10名
就労移行支援事業	10名
就労継続支援B型事業	10名
短期入所・日中一時支援事業	10名
相談支援事業	—

当法人ではこれまで、知的障害の方をおもに対象としてサービスを行ってききましたが、今回特に「市立かしのき園」を利用されていた方を中心に、重症心身障害の方の利用が始まるなかで、当施設ではこれまでの知的障害の方へのサービスに加え、重症心身障害の方々へのサービスを、法人として初めて行います。重症心身障害の方については、従来からサービスの不足が課題と言われ、特に医療的ケアを必要とするの方々にとってはそれがより一層深刻です。こうした状況に対応するため、施設開設にあたっては、この分野での経験を積んだ職員を配置するとともに、開設当初は複数名の看護師をおき、嘱託医との連携のもと医療的ケアを実施していくことといたしました。また作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士などを配置するなかで、今後は関係各機関のご協力をいただきながら、ケア体制の充実に取り組んでいく計画です。

通所利用者定員は60名、短期入所利用者の定員は10名となっております。知的・精神・身体の3障害の方を対象にしたサービスとなります。通所事業は18歳以上の方が対象ですが、短期入所(日中一時支援)および相談支援事業は児童のご利用も可能です。約40名のスタッフが一体となって、多種の事業、また障害種別をこえたサービ

スの提供、送迎サービスの充実など、利用される方のニーズに応えられる事業としていくことをめざしています。

ぷれいす Be で提供する6つの事業について、以下に簡単に説明させていただきます。

1. 生活介護事業

生活介護事業では、利用者の皆さんの生活がより充実したものとなることを目指して、生活の場にふさわしい日中活動を行います。この事業は、大きく分けると身体に障害のある方とそうでない方という2つのグループに分かれることになっており、それぞれの障害特性に応じた活動をしていきます。事業の開始にあたっては、まず食事、排せつ、健康管理といった基本的なサービスを充実させ、その上で様々な日中活動を行っていきます。

2. 自立訓練事業

自立訓練事業は、利用者の方がより自立した生活が営めるようになることを目指し、主に社会生活の力を伸ばすための活動を行っていきます。具体的には、基本的な生活習慣、公共交通機関の利用、金銭の管理、人間関係、福祉サービスの利用といった分野について、利用者の方それぞれが必要とする生活スキル(技術)について学びます。また、こうした社会生活力を身につけると同時に、軽作業等を通じて「働く」という経験への導入を行います。

3. 就労移行支援事業

就労移行支援事業では、働くことを目指して、職場への移行に必要なスキルや経験を身につけるために活動します。そのため、自立訓練に比べると「働くこと」により焦点をあてた支援をしていきます。実際の仕事につながるようなスキルの習得はもちろんですが、同時に職業生活を始めるために不可欠な求職活動の方法、採用面接での対応法、職場でのマナーといった分野も支援します。ぷれいす Be では職員、利用者の方々がともに初めての出会いであり、新しい環境でのスタートとなりますので、まずは利用者の方にはここでの日中生活に慣れてもらい、その上で本格的な就労移行の活動を始める予定です。

4. 就労継続B型事業

就労継続B型事業は、ぷれいす Be の職員が福祉的なサポートを行いながら継続的に働く場を提供していきます。業務用リネンのクリーニングが事業開始時点での作業内容となりますが、今後作業のメニューを拡大していきます。建物内のレストランを地域開放してのカフェ運営を現在計画しています。豊中市にある自家焙煎珈琲販売の専門店である「鳥珈琲」さんと提携し、飲み物と軽食を中心としながら、いろんな人々が時間を気にすることなくリラックスして利用できる居心地のよい空間、人

と人との出会いの場となるようなカフェを開くことを計画しています。ここでは島珈琲さんが自家焙煎した珈琲豆も販売する予定です。オープンの際には改めてご案内をさせていただきますので、ぜひお気軽にご利用くださいよう、お願いいたします。

5. 短期入所・日中一時支援事業

短期入所（日中一時支援）事業はいわゆるショートステイであり、普段はご家族等と一緒に地域で生活されている方の一時的な滞在を支援します。居室は全部で10室あり、専用の食堂、浴室などを含めた独自の空間を設けています。短期入所事業については、5月から日中利用の稼働を開始し、その後段階的に宿泊のサービスを受け入れていく予定にしております。ご利用を検討される方は、おれいすBe代表電話番号あるいはメールアドレスまでお気軽にご連絡ください。

6. 相談支援事業

相談支援事業は、これまで生活支援センター「あんだんて」として行ってきました知的障害者生活支援事業がおれいすBeに移転するのに加え、自立支援法による相談支援事業も新設されます。今回の事業拡充により、相談支援の担当職員を3名に増員し、支援体制の充実を図っています。

4月4日にとり行いました竣工式には多数の関係の方々にご出席いただきました。たくさんのご期待をいただくなかでスタートを切ることができましたこと、本当にありがたく存じます。

最後に名称の由来についてご説明します。「おれいす」は英語で「場所」を意味するplaceをひらがなに直したものです。Beは同じく英語で「ある、いる」といった存在を表します。このふたつの言葉を組み合わせることで、新しく開設されるサービスが「あなたがいる場所、あなたがあるがままで受け入れられる場所」になるようにという願いを込めています。おれいすBeがこの願い通りの場所となるよう、スタッフがそれぞれの力を尽くしていきますので、ご家族をはじめ、関係者の皆さまからのご支援やご指導をよろしく申し上げます。



施設はライトコート（中庭）を利用した、採光あふれる設計になっています。重症心身障害の方のスペースは広めにとっており、機械浴を備えています。

4月4日竣工式の様子



当日はたくさんの方々の関係の方々にご祝辞をいただきました。写真は高槻市副市長 清水伶一様 高槻市議会議長 岡本茂様 衆議院議員 松浪健太様、辻元清美様 建物の設計ならびに設計管理をご担当いただきました二井清治建築研究所様および建物の建築を請け負っていただきました株式会社安部工務店様に感謝状を贈呈させていただきました。利用者視点での設計、また丁寧、誠実な建設を行っていただいたことを感謝いたします。



当日の様子



当日は、施設見学・小宴も行いました。

高槻地域生活総合支援センター おれいすBe

所在地 〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
 代表電話番号 (072) 681-4700
 相談支援チーム直通電話番号 (072) 681-4755
 ファックス番号 (072) 681-4900
 電子メール placebe@suginokokai.com



JR摂津富田駅前より高槻市営バス①乗り場南平台・奈佐原行き 二中西 停車下車 徒歩1分

萩の杜日中活動支援センターふれっと オープンのご案内



萩の杜

施設長代理 しも 下

ひろ 裕 ゆき 幸

このたび、生活施設・萩の杜の敷地内に、利用定員 40 名にて生活介護事業のサービスを提供する「萩の杜日中活動支援センター ふれっと」をオープンいたしました。

これまで萩の杜に入所し生活されている方々は「職住分離」として、多くの方は日中は、町中に開設している「ジョブサイトひむろ」や企業内の作業場などに出掛けていましたが、自閉症の方などを中心に一部、とりわけ環境の変化に弱い方については、施設内に設置した作業場にて過ごしておられる状況でした。しかし、環境的にも十分とは言えないものであり、その改善が課題としてあがっておりました。また、萩の杜併設にて運営しております「萩の杜ショートステイセンター ぶれす」につきましても、特に自閉症の方などの利用が多いなか、落ち着ける専用スペースを確保することが課題でした。これらの課題を解消することをおもな目的とし、また萩の杜開設より 10 年の月日がたち、利用される方の健康状態にも少しずつ変化が出てきている中で、それぞれのニーズにあわせて、日中の活動をより選択できるように、との考えのもと、開設いたしました次第です。

このような中で「日中活動支援センターふれっと」では、①安心安全に配慮した環境整備 ②健康維持・体力維持を目的とした動的プログラムの充実 ③余暇プログラムの充実 の 3 点を重点目標に掲げています。特に生活介護事業における取り組みを次のとおり紹介いたします。

① 安全・安心に配慮した環境の整備

「ふれっと」では、バリアフリー環境を整備するとともに、利用される方個々が安心・快適に活動できるような環境を整えていきたいと考えています。生活介護事業としては作業室を 3 室用意しており、1 グループ 10 名前後の設定に

て、利用される方それぞれの特性やニーズに合わせてグルーピングを実施していきます。

② 健康維持・体力維持を目的とした動的なプログラムの充実

萩の杜の隣には、「萩谷総合公園」という自然豊かな社会資源があります。この環境を活かした散歩などの動的プログラムを積極的に取り入れること、また室内での動的プログラムとして、エアロビクスやバランスボールを利用した活動等を実施していく予定です。これらのプログラムにより、利用される方の健康維持増進を図ってまいります。

③ 余暇プログラムの充実

日中の活動を、いわゆる「仕事」「作業」だけに限定せず、上記運動プログラムを含む「余暇プログラム」や「創作活動」に、これまで以上に力点を置いてまいります。ドライブ、ハイキングなどの外出プログラムを定期的に設定することで、利用される方の余暇を充実させ、利用される方が本来もっていたニーズ、楽しみを満たし、生活の質を高めるような支援をいたします。法人の基本方針である「利用者に対する支援を地域社会との繋がりの中で行う」を、今後とも支援の中で大切に、「ふれっと」を利用者の地域活動の拠点として活用してまいります。

「ショートステイセンターぶれす」のスペースにおいては、子供さん専用スペースを区切りました。とりわけ自閉症の利用者の方で、子供の甲高い声が苦手な成人の方は多数おられ、また大人の大きな体に威圧感を感じる子供さんもおられました。「ふれっと」における専用スペースの利用は日中のみになりますが、子供さんのスペースを区切ることで、これまで以上に快適な環境を提供できるものと考えます。また、施設内には「リラクゼーションルーム」

を設け、周囲が気になり落ち着けない場合などに利用いただけるようになっています。

また施設には別棟で、木をふんだんに使ったカフェスペースを設けました。利用者の方のみならず、来所される関係の方々にも広く利用いただける交流スペースとしていきたいと考えております。

町中の日中活動拠点である「ジョブサイトひむろ」では、心豊かな過ごしを提供しつつ、さらに個人の力を引き出していく方向のもと、就労支援にも力を入れて「仕事」「作業」に力点をおく運営をしておりますが、当センター「ふれっと」では、また違っ

たニーズに応じていけるものと考えています。また法人ではこの春「高槻地域生活総合支援センターふれいすBe」を開所いたしました。そこでも生活介護事業を行ってまいります。3障害の方を対象とする「ふれいすBe」もふくめ、より利用される方が満足いくよう選択いただければと願い、またその満足いただける施設となるよう、運営してまいりたいと存じます。

すでに4月6日よりご利用を開始いたしておりますが、当施設におきましても、皆様方よりのご支援、ご協力賜りますよう、お願い申し上げます。



生活介護室（個室も設けています）



カフェスペース

ショートステイ専用スペース



余暇プログラムの様子



ふれっと名称由来

『ふれっと』とは、ギター等で押弦の位置を正確にするために棹さおに固定した突起状の区切り（フレット）をさします。フレットがあることにより、正確な音程で奏することができます。利用される方一人ひとりの個性を音にたとえ、私たち支援者がフレットとなり、一人ひとりの音（個性）を正確に奏でていくような支援を目指すという意味が『ふれっと』の名称にこめられています。名称は萩の杜職員から募集し採用いたしました。

5回連載予定



OT(作業療法士)奮闘記

～ぼくドラえもんです…か？

高槻地域生活総合支援センターふれいすBe

作業療法士 小林哲理

作業療法の実践 (2)

今回は仕事に集中しにくいBさんの感覚面での取り組みについてご紹介いたします。

1 Bさんのこと

Bさんはジョブサイトひむろで日中を過ごされている20歳代前半の自閉症の男性です。

細身で長身で映画『TAXI』シリーズの主演俳優サミー・ナセリにちょっと雰囲気似た方です。いたずら好きに見えますが、根は真面目で、笑顔がとっても素敵な方です。

Bさんは、仕事をしているときに、「バンバン机をたたき」たり、椅子から立ち上がりスタッフを押しつけて「飛び跳ね」たり、座っていても、「椅子の背もたれに体重を預けてそのまま後ろに倒れ」たり、「よそ見」をしたりして、集中して取り組むことができませんでした。

「バンバン机をたたき」、「飛び跳ねる」、「椅子にもたれて後ろに倒れる」などの行動を目にすると、「ふざけているのかな」「体力がありあまっているのかな」と感じます。しかし、それだけではないように思います。脳が体の内部や外から入ってくる多くの感覚情報（刺激）をうまく処理できないからだと考えます。

2 感覚情報の処理のこと

Bさんが仕事に取り組んでいるとき、仕事に必要な情報以外に、眼には蛍光灯の光（チカチカ見えるよう）や他の利用者の動きなどが映っています。耳には、空調の音や人の声などが聞こえていると思います。体からは衣服の触覚や上半身を支える感覚、お尻が椅子に着いている感覚や足を地面に踏ん張る感覚なども入ってきているはずですが。

脳で感覚の処理がうまくいっていれば、空調の音や衣服の触れる感覚など仕事に必要な感覚情報を遮断して、眼に映る仕事や手の動きなど必要な感

覚情報を取り入れることができます。それにより仕事に集中して取り組むことができるのです。しかし、Bさんは感覚機能の偏りや不足を、環境に適応するような形で、遮断したり、補ったりすることができません。

「バンバン机をたたき」、「飛び跳ねる」、「椅子にもたれて後ろに倒れる」とどんな感じがするでしょうか。「痛い」「体に振動が響く」…。多くの人には不快な感覚かもしれません。しかしBさんは、体の動きを伝える感覚の伝わり方が鈍いため、体の動きを伝える感覚を求めて行っているのではないかと考えたのです。

3 Bさんの感覚機能評価

JSI-R（日本感覚インベントリー）という評価用紙でBさんの感覚機能の偏りを評価しました。関節や筋肉の動きの感覚（固有受容覚）、身体をまっすぐに保ってくれる感覚（前庭感覚）、視るときの感覚（視覚）、触る感覚（触覚）に偏りがあることがわかりました。特に、関節の動きや体の傾きを感知する固有受容感覚や前庭感覚などの身体の動きがわかる感覚が入りにくいようでした。そして、ひとつのものを視るだけでいろいろな情報が入ってきすぎて、混乱されてしまうこともあるようでした。

また、作業と認知のレベルの検査もしました。工程の数が少ないわかりやすい仕事が適切であることがわかりました。

そこで、①仕事に関係しない感覚情報を遮断して、必要な感覚情報だけを受け取れるような環境づくりと②不足している感覚（主に固有受容覚）を補うような仕事や休憩の過ごし方を考えました。また、③本人に合った認知レベルの仕事をしていただきたいと思いました。

4 Bさんへの取り組みとその結果

まず、担当のスタッフと協力して作業中にBさんが気になる他利用者や物などが目に入らないよう

に、仕事をする場所と休憩する場所の位置を変更し、仕事をする場所を囲いました。その結果、よそ見時間が減り、仕事中の立ち歩きが減少しました。

次に、身体感覚（主に固有受容覚）が入りやすい環境設定と課題設定を行いました。椅子を背もたれ付きの椅子から背もたれが無くご自分で背筋を伸ばして姿勢保つ必要がある丸椅子へと変更しました。また、「押し込む」「ねじ込む」など両手にぐっと力が入る仕事を取り入れました。また、仕事に取り組む前（休憩時）に、バランスボールや雑巾がけをBさんといっしょに行いました。その結果、仕事中にはとび跳ねる行為が8月初旬に128回／日みられましたが、11月初旬には0回／日となりました。仕事への集中度やスピードが向上しました。

また、Bさんの必要とする固有受容覚や触覚刺激が強くなる、スルメイカ、グミ、チョコレート、霧吹きや綿棒をご褒美として用いました。

その結果、手添えやジェスチャーでの指示なしにご自分から仕事に取り組まれることが多くなり、仕事へのモチベーションが高まりました。

さらに、必要とする物のカードをご自分で選ぶことで、ご自身で環境に適応した形で感覚調整を図ることができるようにしました。ご自分からの意思表示が少なかったのですが、いらぬものをボードから外したり、ほしいものをボードに貼って要求したり、ボードを通してご自身の意思を表出されるようになり、表情も豊かになりました。

5 今後のBさん

今回の取り組みでBさんは、感覚的なニーズが満たされることで、以前より落ち着いて仕事ができるようになりました。また、ボードを通して、意志の表出が図られました。

しかし、未だ完全にはBさんの感覚的な要求はつかみきれていません。また、感覚的な要求は、季節や天気や湿度などで微妙に違っております。また、他の機能的・心理的・環境的な要因の影響があるために、日々の細かい調整が必要です。

評価→実践→再評価による支援側のBさんのニーズの把握とそれによるBさんの感覚情報の充足が必要です。そのことが、落ち着いて日中活動を行い、達成感や自己実現を得ることに繋がるものと考えます。



「押し込む」「ねじ込む」等固有受容感覚の入りやすい仕事に取り組む様子です。

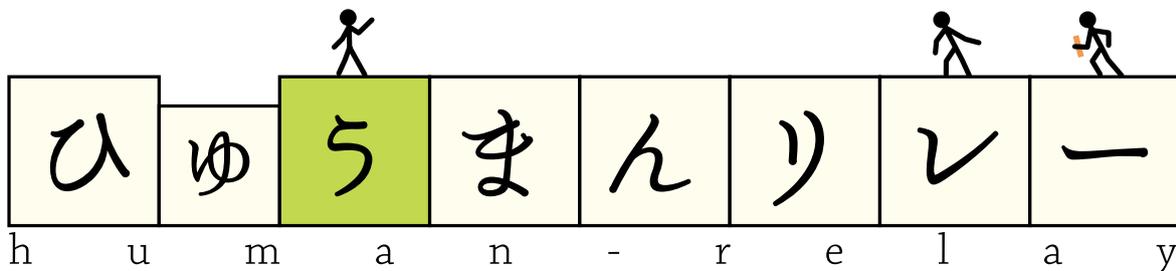


視覚刺激を遮断した環境の設定

『ぼくドラえもんです・・・か?』とは

—ドラえもんがのび太くんのニーズに沿って、友達と遊ぶために、勉強ができるために、家の手伝いをするために、環境を変えたり、道具を変えたり、身体の機能を変えたりするような未来の道具を使って、のび太くと奮闘する姿は、作業療法的ではないかと個人的には思っています。—

(連載初回より)



人工呼吸器をつけた子の親の会 (バクバクの会) 事務局長 折田みどりさんより

人工呼吸器をつけてとことん生きる社会に！

バクバクの会（人工呼吸器をつけた子の親の会）の子どもたちは、病気や障害のために生後間もなくから呼吸器をつけたり、病気の進行や事故などで手放せなくなったりなど、理由は様々ですが、常に人工呼吸器とともに日々の生活を送っています。「人工呼吸器」と聞けば、瀕死の状態で付けられる終末期器具のイメージが先行しがちですが、子どもたちにとっての呼吸器は、彼女、彼らが自らの人生をエンジョイするために必要不可欠な道具であり、大切なパートナーなのです。

バクバクの会は、1989年5月、淀川キリスト教病院で、長期に渡って人工呼吸器をつけている子どもたちの家族会として発足しました。翌年、子どもたちの入院生活や在宅生活をより豊かなものにすると共に、子どもたちが生きていく上でのよりよい社会の実現を目的に、全国にネットワークを拡げました。現在は、全国に13支部があり、600名ほどの会員がいます。

結成当時より、「子どもたちの“いのちと想い”を大切に、「ひとりの人間、ひとりの子ども」として生きる」ということを活動理念として歩んできた会は、今年で丸20年を迎えました。呼吸器をつけていてもどんな障害があっても、当たり前前に地域で自立して生きるということを目指してきましたが、小さかった子どもたちも、今では成人し、それぞれの自立生活の実現が急務の課題となっています。

私の息子、涼も、この春で20歳になります。人工呼吸器歴20年の彼は、当たり前前の生き方として、人工呼吸器をつけながら地域の保育所・小学校・中学校・高校に通ってきました。（昨春卒業し、現在は、浪人生か、はたまたプータロウか…と言ったところ。）彼は、24時間人工呼吸器をつけ、気管からのたんの吸引や経管栄養といった医療的ケアが必要で、体は寝たきり状態のためストレッチャー式の車いすに乗っています。小学校5年生から親の付き添いなく学校に通うということを実現し、自立への道を歩んできました。そして、学校以外の生活の場では、たんの吸引だけでなく、人工呼吸器の操作や経管栄養など、生活に必要なあらゆるケアに習熟し、彼の想いや生き方も含めたサポートのできるヘルパーさんたちの支援で、いつの間にか、家出までするツワモノになりました。

呼吸器をつけて退院した時から、保育・教育の場や、そ

れ以外の様々な生活の中・場面において、ケアも含めた彼の生活が、親だけに依存しない形を求めてきました。様々な人の手によってサポートされる方が安全であり、彼の生活をより豊かにすることができる、それが、やがて彼の自立生活へと繋がっていきと考え、たくさんの方が彼のケアや生き方に関わってくれることを望み実践してきたわけですが、その結果が家出ですから…。まあ、育て方は間違っただけというのでしょうか（笑）。そんなわけで、彼の自立生活への精神的な準備は万端なのですが、医療的ケア問題、ヘルパー不足問題、経済的自立の問題（この春から就職活動をするとのこと）、住居問題、パーソナルコーディネーターの問題など、クリアしなければならない課題は多くあり、現実には厳しいです。でも、彼はきつと、家出した時のように、自分のいのちと想いを無限大にしながら、たくさんの人を巻き込んで、自立生活の道を切り拓いていってくれるでしょう。



さて、近年、医療の現場では、「尊厳ある選択的医療」という名の下に、重症心身障害児者に対するいのちの切り捨てが進んでいます。人工呼吸器や気管切開が必要になってもそれを選択せず、生を全うさせる（長生きさせない）生き方が、今、求められている「障害児医療」の一つの形だと…。選択をするのは、もちろん「本人」ではなく、「家族」と「家族の負担や社会の負担を慮る医師」たちです。障害の重いものは社会のお荷物として、生を短く操作されるこの社会に、呼吸器をつけて生きる子どもたちも、わたしたちも、そんな社会は誰も望んでいない！とハッキリ言わなければなりません。どんないのちも大切にされる社会、とことん生きることにお金を使う社会があつてこそ、だれもが支えあいながら安心して暮らしていけるのです。バクバクの会は、いのちと想いを大切に作る社会づくりのために、これからも呼吸器をつけてとことん生きるオモロイゆめ、人生の実像を発信していきます。

今回は、札幌市で、20年前から人工呼吸器をつけて自立生活をされている佐藤きみよさんにバトンタッチします。ベンチレーター使用者ネットワークや自立生活センターさっぽろの代表として活躍し、仕事も子育ても目一杯楽しんでいるとってもステキな女性です。

法人設立10周年記念事業のご報告・ご案内

法人では2008年度、設立10周年記念事業として、記念講演会（ⅠおよびⅡ）、法人紹介ビデオの作製、研究紀要の発行、機関誌総集編（記念誌）の発行、の4つの事業を行うとして、本誌面にてもお知らせをいたしておりました。10月に実施した記念講演会につきましては先号にてすでにご報告の機会をいただきましたので、今回、残りの事業についてのご報告をさせていただきます。

■法人紹介ビデオの作製

法人の理念を中心に、これまでのあゆみや現在の活動を紹介するビデオを作製いたしました。撮影・編集は有限会社ビデオキッド社にお願いし、日々の利用者の生活の様子、支援の様子などを、短期間ながら非常に丁寧に取材いただきました。“声のプロダクション” キャラ所属の宮本裕樹さんの、やさしい声のナレーションをベースに、インタビューを軸にした新しい感覚の構成に仕上がりました。法人主催のイベントなどで今後、ぜひ一度ご覧いただければと存じます。



インタビュー撮影の様子

■研究紀要の発行

『社会福祉法人北摂杉の子会 法人設立10周年記念研究紀要』（57ページ）として発行をいたしました。日々の実践での取り組み（新規テーマ5編）、また法人内表彰制度のひとつである「業務貢献表彰」よりの受賞テーマ（2編）、そして本機関誌にて2008年度に連載いたしました『問題行動の理解と支援』の取り組みについて再掲する形で（3編）、まとめたものになっています。

配布方法および内容の詳細については、法人ホームページ（<http://suginokokai.com/10th/>）を参照いただきますようお願いいたします。

■機関誌総集編（記念誌）の発行

当法人は「親たちが立ち上げた法人」という歴史をもっております。法人設立前の5年間、地域の親たちが「自分たちの施設をつくる」と決めて活動を行っていましたが、当時発行していた手作りの紙面、そして法人設立後に発行してまいりました機関誌をあわせて再編集した記念誌『大切にしてきたもの。これからのカタチ。』（137ページ）を発行いたしました。お金や土地などの、施設づくりに必要な土台が何もないなかで、どのようにして法人が立ち上がったのか、その思いを受け継いで、法人がどのような10年を歩んできたのか、それぞれのストーリーと発行した紙面を合わせて紹介していく内容になっています。

こちらも法人ホームページ（<http://suginokokai.com/10th/>）に配布方法などの詳細をのせております。サンプルページもご覧いただけるようになっておりますので、ぜひ一度、ホームページにもお立ち寄りください。



記念誌『大切にしてきたもの。これからのカタチ。』
297mm × 297mm の大きめの本です。

日本財団様より車両助成をいただきました

平成 20 年度、日本財団様から車両 2 台の助成をいただきましたことをご報告いたします。

助成内容については次の通りです。

対象施設	高槻地域生活総合支援センター ふれいすBe	ジョブサイトひむろ
助成車種	三菱ふそう ローザ	日産 セレナ
指定用途	送迎	送迎・授産作業 ・余暇活動

高槻地域生活総合支援センターふれいすBeにては、バス車両「三菱ふそう ローザ」の助成をうけました。本車両は日常的な介護を必要とする重度障害者の方で、おもに自力での通所が困難な方の送迎のために使用してまいります。

ジョブサイトひむろでは、「日産 セレナ」の助成をうけました。本車両は、利用者の方の送迎、授産活動の納品業務、余暇活動促進のために使用してまいります。

法人の活動にご理解をいただきました日本財団様に御礼を申し上げます。



ふれいすBeにて助成をうけました「三菱ふそう ローザ」



ジョブサイトひむろにて助成をうけました「日産 セレナ」

表彰式 (20 年度対象)

当法人では職員の意識向上をねらい、人事制度の一環として人事考課制度をおよび表彰制度を導入しています。20 年度分の表彰の様子をお伝えいたします。

4 月 18 日 (土) に行われた法人研修会において、平成 20 年度の業務貢献表彰および資格取得表彰を行いました。

業務貢献表彰は今回は 4 件が表彰対象となりました。今後誌面上にて、具体的な取り組みの中身についてお伝えしていく予定です。

資格取得表彰は、臨床心理士の 1 名です。取得した資格が業務内において存分に活かされることを期待して表彰を行いました。

【業務貢献表彰】

ジョブサイトひむろ研修委員

松田光一郎・小林哲理・谷田加奈子・平野貴久

『ジョブサイトひむろにおける研修の取り組み』～法人中期計画とリンクし、職員ひとりひとりへの育成計画に基づくスキルアップや資格、要件取得研修の実績と効果～ ～非常勤職員への研修とその効果～

石田沙弥香・中野麻衣子・本谷 望

『たんぼぼ会 (an・will・Link の 3 箇所の人材育成と交流) の実績』
勝部真一郎

『ケアホームみやた 地域生活における医療支援体制の構築と活用』

平野貴久・中西 彩・小林哲理・鈴木悠子・松田光一郎

『チームプレイを活かした就労支援』

【資格取得表彰】

(臨床心理士) 豊永佳子



業務貢献表彰



資格取得表彰

今回の資格取得者を含め、正職員・嘱託職員 92 名中の有資格者数 (複数取得者ふくむ)
 社会福祉士：29 名 介護福祉士：13 名 精神保健福祉士：5 名 看護師：2 名 臨床心理士：2 名
 臨床発達心理士：2 名 保育士：7 名 作業療法士：3 名 言語聴覚士：1 名 理学療法士：1 名
 栄養士：1 名 管理栄養士：1 名

お知らせ

◎後援会入会のご案内

「社会福祉法人北摂杉の子会後援会」は、法人を支えていく会として設立されました。会費は法人を支援するための資金としております。入会いただいた方には毎号機関誌をお送りしております。入会申込書と振替用紙をお送りいたしますので、ご入会いただける方については、下記までお名前、ご住所などをご連絡ください。

後援会ご入会は毎号裏表紙にて案内させていただいておりますが、毎年春に一斉にご案内さしあげております。ぜひこの機会にご入会くださいますようお願い申し上げます。

連絡先：法人本部事務所内 後援会入会担当
TEL 072-662-8133
FAX 072-662-8155
E-Mail : kouenkai@suginokokai.com

◎だ・かーぼが法人独自の事業としてスタートいたしました。

2006年に大阪府と高槻市より事業委託を受けて運営してまいりました「高槻市障害者地域移行支援センター だ・かーぼ」につきまして、2009年3月に受託期間の3カ年が満了いたしました。これにより、3月末をもって委託事業としての業務を終了し、4月1日より、この春開設の「高槻地域生活総合支援センター ふれいすBe」内に事務所を移して「高槻障害者地域移行支援センター だ・かーぼ」と改称し、法人独自事業として業務を開始いたしました。

だ・かーぼでは、府内における高槻地域での地域移行の推進を業務としてまいりましたが、法人におきましては、障害者自立支援法および高槻市自立支援協議会における最重要施策である地域移行の推進に向けて、今後も多くの障害のある人たちの地域移行ニーズに応えてまいります。

受託期間中は、ご家族のみなさまをはじめ、行政機関、関係諸機関、そして地域のみなさまから、温かいご指導、ご協力いただきましたことを心よりお礼申し上げます。また今後も変わらぬ支援をたまたりますよう、改めてお願い申し上げます。

高槻障害者地域移行支援センター だ・かーぼ
担当 渡邊直美
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072) 681-4755
FAX (072) 681-4900

◎生活支援センターあんだんてが移転いたしました。

これまでジョブサイトひむろ内に事務所を置いて運営してまいりました高槻市および島本町の委託事業「生活支援センター あんだんて」につきまして、このたび新しく郡家本町に「高槻地域生活総合支援センター ふれいすBe」を開所いたしましたことに伴い、4月1日より同所に移転設置し運営を継続しております。移転後も変わらぬご支援をたまたりますようお願い申し上げます。

生活支援センターあんだんて（4月1日～）
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072) 681-4755
FAX (072) 681-4900

<おわびと訂正>

前号24ページ「法人へのご寄付」の記事内にて、「石橋 守」様を誤って「石橋 宇」としておりました。ここにお詫びして訂正申し上げます。

掲 示 板 コ ー ナ ー

(平成 20 年 12 月から平成 21 年 2 月まで)

法人本部総務部掲示板

- | | |
|--|---|
| <p>12月 6日 法人全体研修 会場 高槻現代劇場
1) 分科会 ①生活介護
②就労支援
③療育支援
2) 全体研修 リスクマネジメント講座
「コミュニケーションリスクに
ついて」
講師 有限会社レイズ取締役
人材育成コンサルタント
増田知乃 氏</p> <p>8日 経営会議</p> <p>15日 ジョブサイトひむろ 高槻市法人指導室 監査</p> <p>16日 萩の杜 高槻市法人指導室 監査</p> <p>25日 運営会議 平成 21 年度職員体制について
平成 21 年・22 年度の各事業にお
ける利用者ニーズについて
コロケ事業について
内定者研修について
統合施設・萩の杜生活介護棟の進
捗状況について
考課者面談の経過報告及び進捗に
ついて
障害者職業総合センター発達障害
就労支援モデル事業応募について</p> <p>26日 平成 21 年 4 月入職内定者研修
①「親たちがつくった社会福祉法人」
講師 理事長 中村 節史
②各部発表</p> <p>1月 5日 経営会議</p> <p>26日 将来構想検討委員会 チーム SS(ケアホーム
事業)
議題 建設予定地について</p> <p>2月 4日 運営会議 法人設立 10 周年記念事業：研究
紀要の件
平成 21 年度理事長方針について
平成 21 年度内定者の配属先について
昇進について (嘱託から正職も含め)
法人全体研修、内定者研修について
萩の杜生活介護棟名称について</p> | <p>7日 法人全体研修 会場 高槻市農業協同組合
1) 分科会 ①生活介護
②就労支援
③療育支援
2) 全体研修 リスクマネジメント講座
「P D C A サイクルの活用及
び書類整備と事例検討」
講師 有限会社レイズ取締役
人材育成コンサルタント
増田知乃 氏</p> <p>12日 平成 21 年度内定者研修
会場 高槻市立生涯学習センター
1) 「新社会人として」
講師 有限会社レイズ 取締役
人材育成コンサルタント 増田知乃 氏
2) 講義「北摂杉の子会職員として働くにあ
たって」
グループワーク 1 (他責から自責へ)
グループワーク 2 (結果の前には原因がある)
講師 北摂杉の子会 2008 年度入職職員</p> <p>20日 将来構想検討委員会 全体会後期報告・まと
めの検討</p> <p>24日 運営会議 法人設立 10 周年記念事業：研究
紀要の件
萩の杜生活介護棟名称等について
平成 21 年度 会議・研修日程に
ついて</p> <p>27日 萩の杜・ジョブサイトひむろ 高槻市法人指
導室 確認監査
(安原 記)</p> |
|--|---|



内定者研修 (2008 年度入職職員による)

萩の杜 掲 示 板

- | | |
|--|---|
| <p>12月 1日 余暇委員会</p> <p>2日 課長主任会議・オーラルヘルスケア</p> <p>4日 マニュアル検討委員会</p> <p>5日 日帰り旅行 (ホテル舞子ビラ神戸)</p> <p>6日 法人全体研修</p> <p>8日 美化の日・散髪</p> <p>9日 内部研修「応用行動分析について」
(講師：萩の杜支援員 津堅)</p> | <p>・オーラルヘルスケア・入浴ミーティング
・萩の杜生活介護棟会議</p> <p>10日 精神科相談</p> <p>11日 旅行委員会</p> <p>12日 日帰り旅行 (ホテルニューアワジプラザ淡路島)</p> <p>16日 課長主任会議・オーラルヘルスケア・実習生
受入
(龍谷大学短期大学部 2 名 ～ 24 日)</p> |
|--|---|

- 17日 高槻市指導監査
- 18日 生活介護係会議
- 22日 散髪
- 23日 クリスマス忘年会
- 24日 精神科相談
- 25日 余暇委員会
- 27日～1月4日 利用者冬期休暇
- 1月 5日 余暇委員会
- 6日 課長主任会議・オーラルヘルスケア
萩の杜生活介護棟会議
- 7日 精神科相談
- 8日 マニュアル検討委員会
- 9日 内部研修「地域生活について」
(講師：だ・かーぼ サービス管理責任者 勝部)
- 12日 散髪
- 13日 課長主任会議・オーラルヘルスケア
萩の杜生活介護棟会議
- 15日 旅行委員会
- 19日 障害程度区分認定調査(利用者5名実施)
- 20日 オーラルヘルスケア
- 21日 精神科相談
- 22日 生活介護係会議
- 24日 グループ研修会(Bグループ)
- 25日 PWS支援者ネットワーク定例会
- 26日 美化の日・散髪
- 27日 オーラルヘルスケア
- 29日 余暇委員会
- 2月 1日 グループ研修会(Aグループ)
- 3日 オーラルヘルスケア
- 4日 精神科相談・課長主任会議
- 5日 マニュアル検討委員会
- 7日 法人全体研修
- 9日 美化の日・散髪
- 10日 オーラルヘルスケア・余暇委員会
- 12日 旅行委員会・ホットトークタイム
- 17日 オーラルヘルスケア・課長主任会議
- 18日 精神科相談・見学(阪神特別支援学校PTA
25名)・萩の杜生活介護棟会議
- 19日 生活介護係会議
- 23日 散髪
- 24日 オーラルヘルスケア・余暇委員会
- 27日 高槻市指導監査

(下 記)

ジョブサイトひむろ掲示板

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 12月 5日 ジョブサイトひむろ会議 6日 法人研修会(高槻現代劇場) 9日 家族会定例会 11日 ジョブサイトひむろスタッフ勉強会 16日 高槻市指導監査 23日 祝日開所日(ジョブサイトひむろ利用者の出勤)
利用者忘年会を実施。会食や出し物を楽しみました。 26日 利用者慰労会
作業グループごとに茶話会形式で日頃の労をねぎらいました。
※12月見学者 5組15名 | <ul style="list-style-type: none"> 12月実習生 3名のべ5日間 12月ボランティア1名のべ4日間 12月27日～1月4日 冬期休暇 1月 12日 祝日開所日(ジョブサイトひむろ利用者の出勤) 15日 ジョブサイトひむろスタッフ勉強会 16日 ジョブサイトひむろ会議 19日 エアロビクス(ゆうあいセンター) 20日 高槻・島本就労支援ネットワーク会議(富田市民交流センター) 27日 エアロビクス(ゆうあいセンター)
※1月見学者 2組のべ4名
1月ボランティア1名のべ4日間 |
|--|---|

クリスマス忘年会の開催

さる12月23日にクリスマス忘年会を開催しました。例年通り、生活各グループ単位で利用者の皆様に喜んでいただけるよう企画を練り、ホテルでの外食や、施設内でのバイキングパーティー等のイベントをおこないました。それぞれのグループで季節感を感じられること、一年の労をねぎらう意味も込めて、利用者の皆様が楽しめるよう職員一同でプログラムを提供させていただきました。



Aグループの風景



Bグループの風景



クリスマス会

萩の杜日帰り旅行

12月5日にホテル舞子ピラ神戸(利用者3名・職員3名)、同12日にホテルニューアワジプラザ淡路島(利用者3名・職員3名)へ、それぞれ日帰り旅行を実施しました。今回の旅行はどちらもホテルでのランチがメインとなりましたが、普段とは違う環境、豪華な食事を満喫されている様子で、施設では使用することのないナイフを器用に使われる利用者様もおられました。できるだけ少人数でそれぞれのニーズに沿った形での旅行プログラムを引き続き実施していきたいと考えています。



ホテルニューアワジ



ホテル舞子ピラ神戸

- 2月 5日 わかくさ作業所様主催の映画上映会に参加
(高槻現代劇場)
利用者4名、スタッフ2名が参加しました。
- 6日 作業所交流会に参加 (高槻現代劇場)
利用者4名、スタッフ3名が参加しました。
- 9日 エアロビクス (ゆうあいセンター)
- 10日 家族会定例会 (高槻現代劇場)
- 11日 祝日開所日 (ジョブサイトひむろ利用者の出勤)
- 12日 ジョブサイトひむろスタッフ勉強会
- 13日 ジョブサイトひむろ会議

- 24日 エアロビクス (ゆうあいセンター)
- 26日 平成20年度第2回利用者健診 (オリエンタル労働衛生組合様)
※2月見学者 2組5名
2月実習生 6名のべ10日間
2月体験実習生 2名のべ4日間
2月ボランティア 1名のべ4日間
(平野 記)

自閉症支援部掲示板

○大阪自閉症支援センター

保護者研修 (入門講座・実践講座・フォローアップ)
各月1回実施
和泉市教育委員会 巡回相談
(小学校2回、中学校3回 計5回)、
泉大津市教育委員会 巡回相談
(小学校2回)、実践報告会
高槻市教育委員会 巡回相談
(小学校4回、中学校1回 計5回)、
摂津市教育委員会 巡回相談
(幼稚園2回、中学校1回 計3回)、
豊能町教育委員会 巡回相談 (中学校1回)、実践報告会
大阪狭山市教育委員会 巡回相談 (小学校1回)、
大阪府発達障がい等療育者養成研修：指導員研修 (第2回～第4回)、心理士研修－PEP-3研修 (全2日)、
保健師研修 (全2日)、保育士等研修 (連続講座全4回、
テーマ別研修全2回)、
大阪府子育て支援課放課後児童クラブ指導員研修事業
(連続講座全3回、テーマ別研修全4回)
研修会・講演会への講師派遣 (大阪府障害者福祉事業団、
大阪障害者職業センター、家庭裁判所調査官協会、大
阪市人権協会、豊中市市民生活部商工労政課、豊中市
地域就労支援センター、財) 社会経済生産性本部、大
阪児童福祉協会東大阪支部、わんすてっぷー障がい支
援をかんがえる会)

○アクトおおさか

- 12月 1日 第2回大阪府アートを活かした障がいの者の就
労支援懇話会出席
- 2日 大阪府発達障害団体ネットワーク運営委員会
出席
- 12日 第5回厚生労働省発達障害の情報提供等事業
に関する運営会議出席
- 25日 大阪府発達障がい者支援センター連絡協議会
成人部会出席
- 1月 9日 発達障害者支援センター全国連絡協議会役員
会・懇談会出席
- 15日 第3回大阪府アートを活かした障がいの者の就
労支援懇話会出席
- 18日 発達障害者支援センター全国連絡協議会近畿
ブロック研修会参加
- 30日 アクトおおさか学校教育支援モデル事業 枚
方市実践報告会出席
- 2月 5日 大阪府発達障害団体ネットワーク第3回ネッ
トワーク会 (テーマ：就労支援)

- 6日 第6回厚生労働省発達障害の情報提供等事業
に関する運営会議出席
- 9日 第4回大阪府アートを活かした障がいの者の就
労支援懇話会出席
- 19日 大阪府成人期発達障がい支援機関連絡会出席
アクトおおさか学校教育支援モデル事業 四
条畷市実践報告会出席
- 26日 大阪府発達障がい者支援センター連絡協議会
成人部会出席

○大阪府発達障がい者日中活動・就労準備支援モデル事業

就労準備支援プログラム職場体験実習 (大阪府庁、花
園大学図書館、大阪市立十三中学校図書室、ラストイ
ング、エル・アイ武田、ジョブサイトよど調理場およ
び事務所)
本人グループ活動 月2回、手芸タイム 週1回、家
族グループ 月1回実施。
スタッフケース検討会 月1回、学習会 月1回開催。
花園大学橋本教授スーパービジョン月2回実施。
(新澤 記)

日中活動・就労準備支援モデル事業での 作業の様子、作品



十三中 図書室実習



手芸タイム マフラー作品



府庁実習 データ集計

○児童デイサービスセンター an

- 12月 5日 保護者研修入門
- 12日 保護者研修実践
- 25日 新規療育児決定通知発送
- 26日 療育終了（年末）
- 1月 5日 療育開始（年始）
- 16日 保護者研修入門
- 23日 保護者研修実践
- 30日 保護者研修フォローアップ
- 31日 平成21年度療育児利用決定者の説明会
- 2月 6日 保護者研修入門
- 13日 保護者研修実践
- 20日 保護者研修フォローアップ

○自閉症療育センター will

- 12月 3日 保護者指導 (A)
- 10日 保護者指導 (B)
- 17日 保護者指導実践グループ
- 26日 療育終了（年末）
- 1月 5日 療育開始（年始）
- 14日 保護者指導 (A)

- 21日 保護者指導 (B)
- 28日 保護者指導実践G／施設見学会
- 2月 4日 保護者指導 (A)
- 9日 平成21年度新規療育児募集要項 HP 掲載
- 18日 保護者指導 (B)
- 25日 保護者指導実践G／施設見学会
- 28日 平成21年度療育利用者の説明会

○自閉症療育センター Link

- 12月 4日 保護者指導 (A)
- 18日 保護者指導 (B)
- 26日 療育終了（年末）
- 1月 5日 療育開始（年始）
- 15日 保護者指導 (A)
- 29日 保護者指導 (B)
- 2月 9日 平成21年度新規療育児募集要項 HP 掲載
- 12日 保護者指導 (A)
- 26日 保護者指導 (B)
- 28日 平成21年度療育利用者の説明会

(谷岡 記)

ジョブサイトよど掲示板

- 12月 8日 見学（高井田苑）
- 12日 給食会議
- 20日 土曜レクリエーション（神戸花鳥園）
- 22日 施設見学会
- 25日 支援員会議
- 26日 年内最終利用日
- 1月 5日 仕事初め
- 6日 支援員会議
- 8日 歯科検診

- 15日 支援員会議
- 17日 土曜レクリエーション（なにわの海の時空館）
- 19日 施設見学会
- 20日 給食会議
- 2月 3日 支援員会議
- 13日 避難訓練
- 14日 土曜レクリエーション（よどまつり）
- 16日 給食会議

(佐々木寛 記)



神戸花鳥園

鳥を直に触ることができて、ドキドキ。
ペンギンと一緒に写真も撮りました。



なにわの海の時空館

土砂を引き上げる模擬体験。力いっぱい引っ張り
ました！ 船では、ちゃんまげ姿の船乗りさんに
案内してもらいました。

萩の杜家族会掲示板

- 12月 8日 サークル萩
- 11日 イオン黄色いレシートキャンペーン活動
- 1月 11日 イオン黄色いレシートキャンペーン活動
- 22日 サークル萩
- 25日 カトリック教会花販売
役員会
フリートーク
定例会

- 2月 9日 サークル萩
- 10日 母親親睦会（匂香庭「麟」にて）
- 11日 イオン黄色いレシートキャンペーン活動
- 12日 ホットトーク（萩の杜にて）
- 15日 カトリック教会花販売
- 26日 サークル萩

(山本 記)

ジョブサイトひむろ家族会掲示板

- 12月 5日 連絡網テスト
 9日 定例会（高槻現代劇場）
 ・家族会会員の伊藤様がお亡くなりになり一
 同黙祷
 ・ふれあいバザーの報告
 ・ケアホーム「庵」見学会報告
 ・法人より報告
 ・施設長より報告
 ・連絡網のスピードアップについて検討（FAX
 の利用等）
 16日 見学
 ・ケアホーム候補地検分（中村理事長、沖本
 副理事長、豊澤会長参加）
 1月 15日 役員会開催
 ・ケアホーム報告
 ・連絡網整備について検討
 ・役員会新年会開催
 26日 SS会（将来構想委員会のケアホーム委員会）
 開催
 ・土地の確保 候補地2箇所
 ・ひむろの「庵」見学後のアンケート結果報告
 2月 10日 定例会
 ・法人理事長報告
 ・アンケート結果報告
 ・ケアホーム実態について勝部氏より講演
 ・ひむろ施設長報告
 15日 父親会
- ・父親10名、中村理事長、松上統括施設長、
 平野施設長、河端先生ご夫妻計15名参加
 ・統合施設見学
 ・萩の杜第2施設見学
 ・ケアホーム候補地2箇所検分
 ・懇親会
 20日 将来構想委員会報告会
 ・佐々木施設長
 ・平野施設長
 ・沖本副理事長 それぞれの分科会から報告
 23日 生活支援センター「あゆ」見学
 ・中村理事長、沖本副理事長、松上統括施設長、
 萩の杜本田様、ひむろ豊澤、施設勝部氏参加
 ・とんぼ福祉会 辻村常務理事より説明
 ・とんぼ作業所・あゆセンター長
 大森様より説明
 25日 役員会
 ・総会について 4月16日（木）高槻現代
 劇場にて開催決定
 ・役員改選について 会計・会計監査を除いて
 全員留任
 ・会計・会計監査について立候補要請書を3月
 月初に配布
 ・次回役員会について 3月24日（火）総会
 報告書作成を計画
 ・4月2日（木）新旧役員引継ぎ、総会資料
 発送を計画
- （豊澤 記）

北摂杉の子会後援会掲示板

<近況報告>

本会の活動に対し、萩の杜、ジョブサイトひむろ、ジョ
 ブサイトよどの家族会を含む多くの方々のご支援をい
 ただき、まことにありがとうございます。今後ともよ
 り一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。

（会員数）

- ・2008年12月
 個人会員：606名、団体会員：18団体
 合計：624名／団体 寄付：1件

- ・2009年01月
 個人会員：607名、団体会員：18団体
 合計：625名／団体 寄付：3件
- ・2008年02月
 個人会員：609名、団体会員：18団体
 合計：627名／団体 寄付：1件
 （今年度の新規会員：個人；89、団体；3）

（棚山 記）

ジョブサイトよど家族会掲示板

- 12月 1日 家族会役員会開催。100円喫茶実施。
 2日 大阪府発達障害団体ネットワーク運営委員会
 参加。（会長）
 8日 オアシスサロンで、100円喫茶実施。
 11日 オアシス役員会で、100円喫茶実施。
 13日 十三市参加。
 15日 12月定例会開催。会員26人、佐々木施設長
 出席。
 22日 大阪府庁、大阪市役所、大阪市教育センター
 訪問（オアシス会長、ジョブサイトよど会長）
 1月 6日 家族会役員会開催。100円喫茶実施。
- 十三連合振興町会会長宅、淀川区民生委員長
 宅など訪問。（会長、会計）
 8日 歯科検診を実施。
 オアシス副会長 和泉先生（歯科医師）ご協
 力頂く。
 13日 十三市参加。
 19日 オアシスサロンで、100円喫茶実施。
 20日 大阪府発達障害団体ネットワーク臨時運営委
 員会。
 大阪府教育委員会と交流会に参加。（会長）
 21日 淀川社会福祉協議会訪問。（会長、副会長、

運営委員)

- 22日 オアシス役員会で、100円喫茶実施。
- 28日 将来構想委員会就労部参加。(会長)
- 2月 2日 家族会役員会開催。100円喫茶実施。
- 5日 大阪府発達障害団体ネットワーク講演会参加。(会長、運営委員)
- 9日 よどまつり準備。
- 10日 十三連合振興町会会長宅、淀川区民生委員長宅など訪問。(会長、運営委員)
- 13日 十三市参加。
- 14日 第3回よどまつり開催。参加80人。
- 16日 オアシスサロンで、100円喫茶実施。
- 19日 オアシス役員会実施。
- 20日 将来構想委員会各部門の報告会参加。(会長)
(福田 記)

よどまつり

毎年恒例のよどまつり第3回目を2月14日に開催いたしました。当日は80名の方にご来場いただき、寄席、ミニバザー、100円喫茶、ゲームを楽しんでいらっしゃいました。



ゲーム



寄席



ミニバザー



100円喫茶



コロケカレー作り

大阪自閉症支援センターを発展させる会オアシス掲示板

- 12月 2日 大阪府発達障がい団体ネットワーク運営委員会出席(副会長、前会長)
- 8日 オアシス・サロン開催
- 11日 12月度役員会
- 22日 大阪府庁、大阪市役所、大阪市教育センター訪問(相談役、会長)
- 1月 19日 オアシス・サロン開催
- 22日 1月度役員会
- 24日 調理実習第三回目開催(就労委員会)
- 27日 施設見学会 港育成園(就労委員会)
- 2月 5日 府発達障がい団体ネットワーク会参加(相談役、会長、副会長、会員)
- 9日 大阪市心身障害者リハビリテーションセンター訪問(会長)
エルムおおさか訪問(会長)
- 13日 十三市にてバザー開催(収益委員会)
- 14日 ジョブサイトよどまつりにてミニバザー開催(役員会)
- 16日 オアシス・サロン開催
- 19日 2月度役員会
大阪市更生療育センター訪問(副会長)
- 25日 オアシス会員保護者実践報告会開催
(報告者: 福田 啓子さん)

(芝 記)

調理実習

ニッセイ財団様より助成金をいただき、平成20年度第三回目の調理実習を開催いたしました。自立への繋がりや食育を目的とし、参加対象は、オアシス会員の児童青年・一般申込みの児童青年としました。食材の買い物から調理、食事、後片付けまで、参加された皆さんもボランティアさんとともに楽しく活動されておりました。



□法人へのご寄付に感謝いたします。(2008年12月18日～2009年2月26日)

河端良一 医療法人小憩会 小川正明 宮本東雨 森田 弘 山下一己 西田源太郎 大峰教二
医療法人箕伯会 やすむらクリニック 康村勝史 オアシス 稲村美也子 羽根田茂子 木村節子

□後援会入会と会費納入に感謝いたします。(2008年11月28日～2009年2月5日)

社会福祉法人なみはや福祉会 中津保育園 中村清子 黒田節子 平田 実 平田登代子 林 秀郎 降幡 真
有馬明男 福井 務 荒川 睦 赤尾浩子 井上美代子 降幡宏子 降幡 聡 匿名様 沢田隆夫 栗飯原みき子
本田利秋 本田英世 本田賀子 本田俊之 本田 聡 本田宏美 広井良平 広井 泉 稲井由沙子 柏木美智恵
軽込 昇 植松芳哲 植松登志子 植松正機 植松信機 植松里枝 植松小遥 安原二三子 出口幸平 矢橋雍文
矢橋美智子 矢橋 文 矢橋知美 清水陽子

□後援会へのご寄付に感謝いたします。(2008年11月28日～2009年2月1日)

アローエンジニアリング 柏原ひさる 橋川靖子 カトリック高槻教会 匿名様

□家族会へのご寄付に感謝いたします。(2009年1月1日～3月31日)

光の教会 森田 弘 沢田隆生 匿名様

□物品のご提供に感謝いたします。(2009年1月1日～3月31日)

南野 田中幸子 大黒 長井美代子 沢田幸子 滝本 中出 米奥 高市友子

□ボランティアに感謝いたします。(2009年1月1日～3月31日)

ほかほか弁当茨木園田店 松木咏子 佐々木 坂井恵美子 白田朋子 高松健太 丹葉大樹 西本 愛 青木俊雄
(敬称略 順不同)

寄付と後援会入会のお願い

社会福祉法人「北摂杉の子会」後援会の趣旨に賛同され、ご支援して下さる方々の寄付及び後援会への入会をお願い申し上げます。寄付金と後援会費は法人を支援するための資金とさせていただきます。

お振込みは右記口座まで、もしくは、同封の振込用紙をご利用下さい。皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

記

1. 寄付金
2. 個人会員 年間一口 2,000円
3. 団体会員 年間一口 10,000円

郵便振込口座北摂杉の子会
00920-8-90859

□ 社会福祉法人北摂杉の子会法人本部事務所
〒569-0071 高槻市城北町1丁目6-6 奥野ビル402
TEL (072) 662-8133 FAX (072) 662-8155
[E-Mail] info@suginokokai.com
[URL] http://www.suginokokai.com

□ 知的障害者生活施設萩の杜
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072) 699-0099 FAX (072) 699-0130
[E-Mail] haginomori@suginokokai.com

□ 萩の杜ショートステイセンターぶれす
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072) 699-0099 FAX (072) 699-0130
[E-Mail] breath@suginokokai.com

□ ケアホームとんだ
〒569-0814 高槻市富田町5-13-14101号室

□ ケアホームみやた
〒569-1142 高槻市宮田町3-4-1105号室

□ ジョブサイトひむろ(就労移行支援・生活介護事業)
〒569-1141 高槻市氷室町1丁目14-27
TEL & FAX (072) 697-2234
[E-Mail] himuro@suginokokai.com

□ 高槻地域生活総合支援センターぶれいす Be
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072) 681-4700 FAX (072) 681-4900
[E-Mail] placebe@suginokokai.com

■ 生活支援センターあんだんて
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072) 681-4755 FAX (072) 681-4900
[E-Mail] andante@suginokokai.com

□ 高槻障害者地域移行支援センターだ・かーぽ
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072) 681-4755 FAX (072) 681-4900
[E-Mail] da-capo@suginokokai.com

■ 大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさか
〒532-0023 大阪市淀川区十三東3丁目18-12 イトウビル1F
TEL (06) 6100-3003 FAX (06) 6100-3004
[E-Mail] act-osaka@suginokokai.com

■ 大阪府発達障がい者日中活動・就労準備支援モデル事業所
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目6-8 高田ビル201
TEL (06) 6100-0262 FAX (06) 6100-0282

□ 自閉症療育センターwill
〒569-0077 高槻市野見町3-14 第2高谷ビル2F
TEL (072) 662-0100 FAX (072) 662-0056
[E-Mail] will@suginokokai.com

□ 自閉症療育センターLink
〒573-0032 枚方市岡東町24-10 アイエス枚方ビル3階
TEL (072) 841-2411 FAX (072) 841-2412
[E-Mail] link@suginokokai.com

□ ジョブサイトよど(就労移行支援・生活介護事業)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06) 6838-7007 FAX (06) 6838-7015
[E-Mail] yodo@suginokokai.com

□ 大阪自閉症支援センター
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06) 6838-8990 FAX (06) 6838-7015
[E-Mail] o-center@suginokokai.com
[URL] http://oasc.jp

□ 児童デイサービスセンターan
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06) 6838-8990 FAX (06) 6838-7015
[E-Mail] an@suginokokai.com [URL] http://oasc.jp

※■は行政よりの委託事業

発行人 社会福祉法人北摂杉の子会 理事長 中村節史 発行所 北摂杉の子会 住所 大阪府高槻市大字萩谷14番地1
発行日 2009年4月10日 定価 100円